

濟心塚

この松の木が茂る塚は、僧侶で、仁和寺の第2世門跡、性信法親王の師でもあった濟信大僧正（954～1030）を祀っています。濟信は、身分の高い貴族、源雅信（920-993）の息子で、当時の宮廷と貴族に好まれていた2つの仏教宗派のひとつ、密教の真言宗を学びました。濟信は、僧職を経て出世し、京都最古の寺、東寺や、当時の真言宗本山で要職を歴任しました。濟信は、最終的には大僧正として任命され、1020年には、牛車宣旨を受け、宮門の前で牛車を降りる代わりに、牛車に乗車したまま宮門を通過することを許可されるという前代未聞の権利を与えられました。濟心塚は、埋葬塚のように見えますが、濟信の遺体はその中に埋葬されていないと考えられています。